

平成 15 年度国立国語研究所日本語教育上級研修 修了発表

「学習者の自発的発話を引き出すための考察」 共同研究

正田桜子(システム桐葉外語)

中村雅子(カイ日本語スクール)

迫脇宏美(システム桐葉外語)

授業の中で学習者が受身であり、自発的な発話が少なく感じた為、学習者の自発的発話がどのような場面で活発に起こり、また発話を促す為に教師はどのような対応ができるのかを知りたいと考えた。その為に発話を流れ、内容、きっかけ、機能、方法の5つの視点からコーディングし、分析した。

結果、他者との理解のずれを埋めようとしたり、新たな情報を引き出そうとしたりする意味の交渉が行われている場面で、学習者が自発的に発話を起こし、会話を展開し、積極的に発話に参加している様子が観察できた。また、そのような場面では言葉の置き換えや付け足しなどが行われやすく、学習者が教師の役割を代行することもあり、学習効果があげられることにも気付いた。